

有機培地水耕でトマトの水平放任栽培(一本取り)！

今号は、愛知県中島郡平和町の伊藤秀恭さんが取り組まれているトマトの水平放任栽培(一本取り)に有機培地水耕を応用した事例の紹介です。

伊藤さんは、もともと農家だったわけですが親の高齢化もあって20数年の会社勤めから4年前(当時45才)農業に転身されたそうです。自分がやる以上、従来型の農業より時代に即応した農法をと、随分歩かれたそうです。これらの活動を経て、トマトの水平放任を選択されたわけですが、その理由も明快で、トマト作りの名人もすでに市中にはたくさんおられるわけで、今更この年でこのこ出ていっても勝負はあきらかで、オリジナリティーのあるものと、この方式を選ばれたそうです。人件費がかからない、作付けパターンを操作することで年間の作業平準化が

可能な点に魅力を感じたとのことでした。

以来常に進化を求めて、「もっともっというものを」の精神で挑戦を続けられています。その精神は、当初の採用品種「ハウス桃太郎」から「ルネッサンス」への変更であり、今回の有機培地水耕の導入に見てとれます。ルネッサンスは新しい品種ですが、ファースト系で、ファースト特有のうまみと、皮が柔らかいという従来品種で物足りなく感じていた点をカバーしてくれていたこと、自家受粉してくれるためみつばち導入、ホルモン処理などの作業が不要であることが気に入って、すぐに置換を決意されたとのこと。同様に有機培地水耕は、水耕方式だけでは味が限られる、夏場の品質をなんとかしたい・・・のこだわりから、M式が新しく培地利用に取り組んでいる

ことを知りH社プラントではあるがと、相談に来られて実験的に今年2月から導入を決意されたものです。2月定植のものは、すでに収穫が始まっており、実のしまったいい物が取れており、培地の効用は予測通りと満足をされています。現在フルーツトマトとして量販店への直販、農場での販売などで900坪の生産品全て販売できているとのことで、品質のいいものを作り続けてブランドとして定着させたい。思いを同じとする他品種の生産者とも、コンソーシアムみたいなものが組織できたらいいなとの夢を持っておられます。この精神で、今後も前へ前へと進んでいきたいと熱っぽく語っていただきました。今後の益々のご発展をお祈りいたします。

(経営企画 小倉東一)



6月定植分



5月定植分



4月定植分



3月定植分